

警戒レベル

市から高齢者等避難(警戒レベル3)や避難指示(警戒レベル4)等の避難情報が発令された際には、危険な場所から速やかに避難してください。また、気象庁より警戒レベル3、レベル4に相当する気象情報が発表された際には、避難指示等が発令されていなくても自ら避難の判断をしてください。

警戒 レベル	気象庁等の情報			避難情報	住民が取るべき行動
	大雨・土砂災害	高潮	河川氾濫		
5	大雨 特別警報		氾濫 発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される 情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。

《警戒レベル4までに必ず避難！》

4	土砂災害 警戒情報	高潮特別警報 高潮警報	氾濫 危険情報	避難指示	危険な場所から全員避難
3	大雨警報 洪水警報	高潮警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	氾濫 警戒情報	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 避難に時間のかかる方は避難を開始しましょう。
2	大雨警報に切り替 える可能性が高い 注意報 大雨注意報 洪水注意報	高潮 注意報	氾濫 注意情報		自らの避難行動を確認 防災マップ等により、自宅等の災害リスクを再確認する とともに、避難情報の把握手段を再確認しましょう。
1	早期注意情報(警戒級の可能性)				災害への心構えを高める

避難行動について

● 避難のポイント

避難場所に行くことが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けることです。そのときの状況、人によって方法は異なります。「自分の命は自分で守る」意識を持ち、普段からどう行動するか決めておきましょう。

立退き避難 … 指定避難場所、親戚、知人宅、ホテル、旅館等へ避難します。

屋内安全確保 … 建物が安全で屋外へ出ることが危険な場合は、そのまま屋内で安全を確保してください。



● 避難場所と避難所の違い

避難場所 … 災害による危険から逃れ、一時的に身を守るための場所になります。
(例：川の氾濫や高潮・津波で浸水しない場所、地震で壊れない場所 など)

避難所 … 災害により自宅で生活できなくなった方や、自宅へ戻れなくなった方が一定期間生活するための場所になります。



外水氾濫と内水氾濫

河川の堤防から水があふれ、又は堤防を破壊して、建物や田畑が浸水してしまうことを外水氾濫といいます。外水氾濫が発生すると広い範囲が浸水して、大災害が発生する恐れがあります。

対して、堤防から水があふれなくても、降った雨を河川へ排水できず、建物や土地・道路が水に浸かってしまうことを内水氾濫といいます。外水氾濫と比べて、浸水規模は小さいですが、いたるところで発生しやすい特徴があります。



崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく流れ出した水が、家などに襲い掛かります。

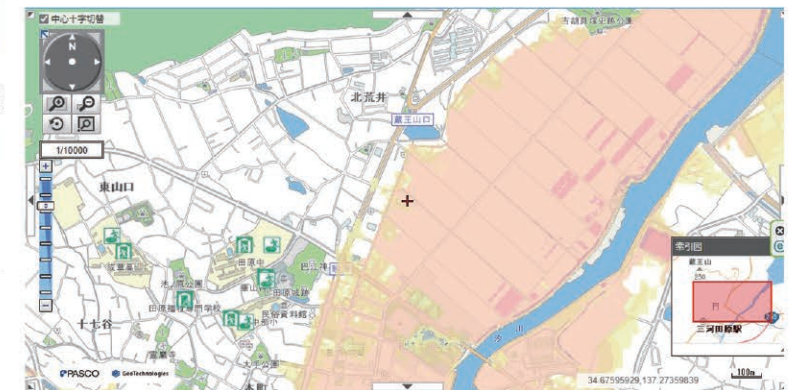


大雨により川の水位が上がることで、排水されにくくなり、下水道や排水路などがあふれてしまいます。

ハザードマップの河川浸水想定について

想定し得る最大規模の大雨によって河川が氾濫した場合の浸水の状況を愛知県がシミュレーションしたものです。想定最大規模の大雨が発生する確率は、概ね1,000年に1回程度となります。

※高潮や内水による氾濫を考慮していませんので、浸水が予想される区域(着色された区域)以外でも、浸水が起こる場合があります。



氾濫時に注意すること



テレビ、ラジオ、インターネットなどで正確な情報を集めましょう。
危険を感じたら早めに避難しましょう。



水の深さが膝程度あると大人でも歩くことが困難になります。
建物の高いところへ避難することも選択肢のひとつです。



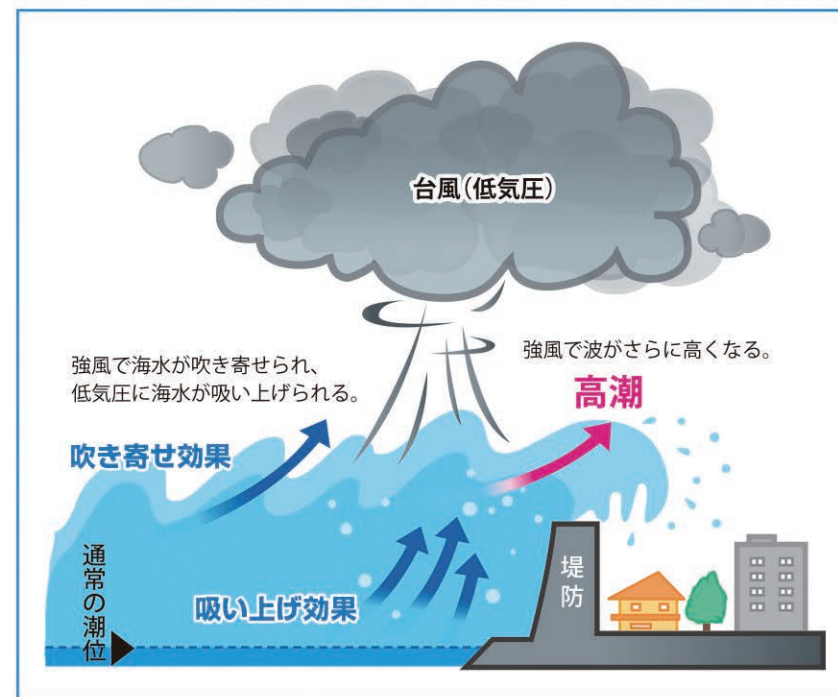
ふたのあいたマンホール、側溝、段差など、水面下には見えない危険が多いので、
長い棒などを杖にして、安全を確保しながら歩きましょう。



非常持ち出し袋などは背中に背負い、
できるだけ両手を使える状態にしておきましょう。

高潮発生メカニズム

台風が海岸に接近・上陸するときには、気圧が低いために海面が吸い上げられることで水位が異常に上昇し、同時に沖合から沿岸に向かって吹く暴風とともに海水が陸地に押し寄せます。この現象を高潮といいます。高潮が満潮時と重なると陸地への被害は一層大きくなります。



低気圧による吸い上げ

台風や低気圧の中心付近では、気圧が低いため、その部分の空気が海面を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。気圧が1hPa低くなると、海面は約1cm上昇します。

風による吹き寄せ

台風などによる強風が沖から海岸に向かって吹くと、海水が海岸に吹き寄せられ海面が上昇します。海面の上昇は風速の2乗に比例します。風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。

過去の主な高潮災害

昭和34年の伊勢湾台風では、暴風雨や高潮による災害が伊勢湾を中心に県下全域で発生しました。本市においても、住家の全壊2,317戸・半壊浸水581戸、非住家の全半壊1,979棟など、大きな被害となりました。

平成21年の台風第18号では、大雨・強風・高波・高潮により各地で土砂災害や浸水による被害などが発生し、本市では住家の全壊が1戸、一部損壊186戸、床上浸水46戸のほか港湾施設2か所の被害など、大きな被害となりました。

ハザードマップの高潮想定について

想定し得る最大規模の高潮による浸水の状況を愛知県がシミュレーションしたものです。最大規模の高潮は、日本に接近した台風のうち最大規模の台風が、満潮時、台風の影響により最も潮位が高くなる進路を通過した場合を想定しています。

最大規模の台風としては昭和9年の室戸台風級(室戸岬上陸時 911.6hPa)の台風が、上陸時の気圧(910hPa)のまま、伊勢湾台風級の速度(73km/h)で通過した場合を想定しています。想定最大規模の台風が発生する確率は、概ね500年から数千年に1回程度となります。

また、高潮の影響による河川の水位上昇・氾濫、堤防の決壊を考慮するなど、最悪の事態を想定しています。

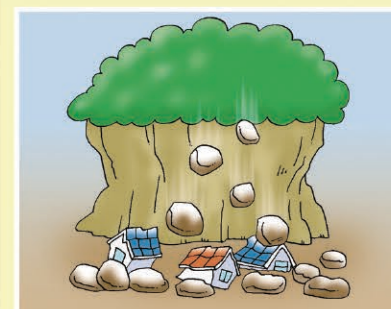
※浸水が予想される区域(着色された区域)以外でも、浸水が起こることがありますので、十分に注意してください

土砂災害の種類

土砂災害には、「がけ崩れ」「土石流」「地滑り」の3種類があります。甚大な被害を引き起こす土砂災害に対処するには、それぞれの特徴と発生の兆候を知ることが重要です。

がけ崩れ

雨や地震などの影響で地盤がゆるみ、突如斜面が崩れ落ちる現象です。



前兆現象



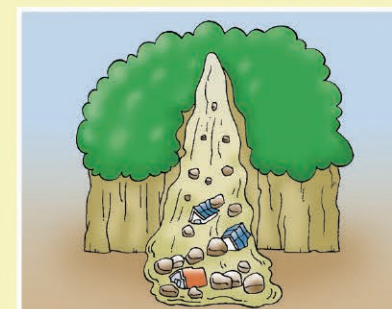
斜面(がけ)から小石がバラバラと落ちてくる



斜面(がけ)から急に水がわき出したり、わき水が濁る

土石流

山や川を構成する土砂が大雨などにより発生する大量の水と一緒に激しく押し流される現象です。



前兆現象



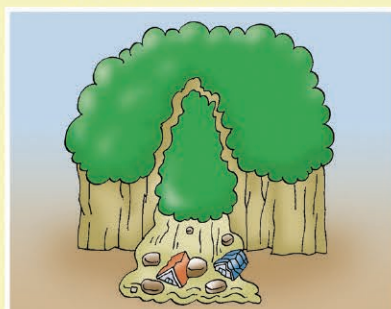
川が濁り、流木が一気に流れる



山鳴りがする

地滑り

地下水などの影響により、斜面を構成する土塊が斜面下方に大きくすべりだす現象です。



前兆現象



地面にひび割れができる



斜面の所々から急に水がわき出す

土砂災害(特別)警戒区域

土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)

愛知県の指定する、土砂災害が発生した場合に住民等の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域です。地形により「急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)」、「土石流」、「地滑り」に分類されます。

土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)

土砂災害警戒区域の中でも、建物等の損害が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域です。特定の開発行為の制限や建築物の構造規制があります。

